

研究タイトル：

## 未利用資源を利用した魚類飼料の開発



氏名： 後藤 孝信 / GOTO Takanobu      E-mail: goto@numazu.kosen-ac.jp

職名： 教授      学位： 博士(薬学)

所属学会・協会： 日本水産学会, 水産増殖学会, 日本薬学会

キーワード： 酵素, 代謝, 食品, 家畜, 栄養学

技術相談

提供可能技術：

- ・養殖用飼料の栄養価の評価
- ・廃棄物の魚類飼料への応用
- ・水産加工物の品質評価
- ・食品成分の分析

### 研究内容： 未利用資源を利用した魚類飼料の開発

技術分野： 食料科学・技術

日本の食料自給率は先進国の中で最も低く、40%前後を推移しています。その一方で、人口増加、健康ブームに伴う海洋食品の消費増加や環境破壊により、世界の魚類資源は減少の一途をたどっています。ウナギは絶滅危惧種ですが、日本は世界のウナギを大量に消費しているという事実もあります。

このような国内外の食糧事情や生物資源の問題を解決するためには、食糧増産技術の開発が不可欠です。中でも、魚類資源の増産、特に養殖業に関しては、低価格で栄養価の高い魚類飼料の開発が重要です。皆さんの大好きなマグロは、30年の歳月を経て養殖が可能となりました。とても喜ばしいことです。

このような目的の研究として、過去に我々は、タウリンがブリやマダイなどの海産魚類に対して成長促進効果を示すことを見出すと共に、魚類のタウリン生合成能力が魚種により大きく異なることを愛媛県水産試験場と宮崎大学との共同研究で報告しました。さらには、牛胆汁沫がニジマス大豆タンパク質の利用率を向上させることを養殖研究所や東海大学との共同研究により報告しています。

魚類の生化学的な特徴や栄養要求は、哺乳類のそれと大きく異なるだけでなく、魚種間でも大きく異なることから、今後は、魚類の生化学的な特徴を解明しつつ、未利用資源を用いた新規な魚類飼料を開発したいと考えています。

### 研究者 PR・自己紹介

静岡県は、国内最大規模の工業県であると同時に、国内最大規模の農林水産業県です。したがって、農業と工業の融合に最も適した地域と言えます。工業高等専門学校の職員として、静岡県の工業、農業、水産業の発展に貢献できればと考えています。

### 提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)

分光光度計(日本分光)

高速液体クロマトグラフィー(日立, 島津)

ガスクロマトグラフィー(島津)